

【R8】安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくりに向けた 熊本の教師の心がけ 10か条

1 視点 児童生徒同士のつながり（「子供」と「子供」）

錦町立木上小学校

番号	項目	4月	7月	10月	12月	2月	平均
①	まずはオープンマインド：ソーシャルスキルトレーニング等の手法を授業に取り入れ、子供たちの笑顔が絶えない教室の雰囲気づくりに努めているか。	3.0					3.0
②	みんなちがって、みんないい：子供たちの失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりする授業づくりや言葉かけを意識していますか。	3.6					3.6
③	授業は全員参加・全員活躍：教材・教具や授業展開を工夫し、すべての子供が学習活動に参加し活躍できるようにしているか。	2.9					2.9
④	ハードルはチャンス：一人では解決困難な課題を与えていますか。（教え合ったり、助け合ったりする必然性が生まれ、子供同士のつながりが強固になる。）	2.9					2.9

①②④については、平均3.0を超えている。特に、②みんなちがって、みんないい：子供たちの失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりする授業づくりや言葉かけを意識していますかが高評価であることは年度当初として、学級経営のいい滑り出しができたのがわかる。

③授業は全員参加・全員活躍：教材・教具や授業展開を工夫し、すべての子供が学習活動に参加し活躍できるようにしているか。については、校内研修を核として児童が主体となる授業づくりになるように検討し、7月には3.0以上の評価を期待したい。（重点指標2関連）

2 視点2 教職員と児童生徒のつながり（「教師」と「子供」）

番号	項目	4月	7月	10月	12月	2月	平均
⑤	子供の「よさ」を見付ける：子供一人一人の言動をよく観察し、一人一人のよさを様々な角度から見付けていますか。（わずかな成長や、その子もつよさに気付く目を養う。）	3.2					3.2
⑥	自ら示す「生き方モデル」：子供たちに指導したことと自身の言動に食い違いがないようにし、生き方で大事なことは、言葉だけでなく、自身の姿で語ることができるようにしていますか。	3.0					3.0
⑦	評価はタイムリーに：子供一人一人のよさや頑張りを積極的に認め・ほめ、常に「見守っているよ」、「応援しているよ」という教師の気持ちが伝わるようにしていますか。	3.1					3.1

⑤⑥⑦とも平均3.0を超える結果となった。特に⑤の児童のよさを見付けることは「褒め、認め、励まし、伸ばす」本県の行動指標に合致している。

「教師」と「子供」につながりは良好な年度初めとなった。

3 視点3 組織体としての教職員同士のつながり（「教師」と「教師」）

番号	項目	4月	7月	10月	12月	2月	平均
⑧	学校は組織体：話し合っで決めた指導内容は、みんなで意識をそろえて実践していますか。子たちへの指導は、担任一人でなく全職員で一致した指導を行っていますか。	3.1					3.1
⑨	風通しのよい職場：授業の成功や失敗、学級づくりの悩み等を職員室で語り合っているか。（学堂のヒントは、隣のクラスの実践から見付かる。）	2.8					2.8

⑧学校は組織体では、入学式や交通教室、体力テストなど全職員で協働する場面が多く見られたことから高結果となった。年度初めの職員会議でも他職員の校務分掌を支えたいという建設的な意見も多く聞かれた。組織体として動く基盤がある木上小学校だと感じた。

⑨は、校内研修の見せ合う授業等でも学ぶ機会があるため、今個の向上に期待したい。

4 視点4 学校と家庭、地域・関係機関のつながり（「学校」と「家庭、地域・関係機関」）

番号	項目	4月	7月	10月	12月	2月	平均
⑩	保護者・地域は子育てのパートナー：「こうなってほしい」という願いや思いを共有し、それぞれにしかできないことを明確にし、互いに協働・連携して、熊本の未来を創る子供を育てていますか。	2.7					2.7

【R8】安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくりに向けた 熊本の教師の心がけ 10か条

■ ⑩ については、まだ保護者との接点が授業参観と学級懇談会しかないことから結果は妥当だと思う。今後、学校運給協議会や地区懇談会、地域学校協働活動をはじめ保護者等のかかわりで高まっていくことが予想できる。グランドデザインを五者で共有し、同じ目標やねらいをもちながら木上っ子を育てていく体制の基盤をつくるのが、年度末のゴールである。